



## 南波多郷学館児童 シバハギ植栽



↑南波多郷学館と保存会による保存活動は、今年で8年目になります

7月16日、南波多郷学館6年生の児童18人が、市天然記念物に指定されている大野岳山頂付近のタイワンツバメシジミ繁殖地で、タイワンツバメシジミの食草である『シバハギ』を定植しました。  
これは、絶滅危惧種に指定されているチョウ『タイワンツバメシジミ』の保存活動の一環として行われたもので、児童たちは、4月に種まきをして大切に育ててきたシバハギの苗120株を『大野岳タイワンツバメシジミ保存会』の指導を受けながら、一つ一つ丁寧に植えていました。

みんなで  
考えよう  
人権・同和問題  
No.278

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

●問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎23・3186

## 言葉の持つ力

『釜石から復興未来ゆき』という切符をご存じですか。実際に乗車することはできませんが、三陸鉄道の復旧を願って作られた特別な切符です。有効期限は『諦めない限り有効』と書いてあり、必ず立ち直るという力強い気持ちが伝わってきます。

東日本大震災から11日後の2011年3月22日に気仙沼市立階上はしかみ中学校で卒業式が行われました。全員がそろったことは叶いませんでしたが、卒業生代表の答辞は、感謝の言葉から始まり、震災の前日に渡された卒業アルバムに詰まっていた、同級生への思いが述べられました。「生かされた者として顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く正しくたくましく生きていかなければなりません」「苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが

私たちの使命です」と語られた言葉には重みを感じます。同時に、人を勇気づけたり、励ましたり、慰める大きな力があることも分かります。

一方で、言葉には、夢や希望を打ち砕く負の力もあります。作家の向田邦子さんは『言葉が怖い』という講演の中で「言葉は諸刃の剣」「謝っても取り返しが付かないことが怖い」「書いた言葉は消せるが口から出た言葉は消すことができない」という話をしています。

インターネット全盛の現代は、書いた言葉を消すことさえもままならなくなっています。言葉の重みは、さらに大きさを増しています。言葉は、相手の気持ちを考え、十分に吟味して使う必要があります。人の気持ちを明るくし、元気づける、そんな安心できる言葉を使いたいものです。

## 郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22・1262

## 大きな石鏃と小さな石鏃

石鏃とは、矢の先端に取り付ける石でできた『やじり』のことです。

旧石器時代(縄文時代より前)は、気温が低く、ナウマンゾウやオオツノジカといった大型動物が多く生息していたため、槍などの大きな石器を使って狩りが行われていました。しかし、縄文時代になると気候が温暖になり、イノシシやウサギ、鹿などの素早く動く小動物が増えたため、狩猟具として弓矢が使われるようになりました。

写真の石鏃は、木須町の樽浦遺跡から出土したものです。写真中央の石鏃は、黒曜石製で、長さ2.6㍍、重さ2.5㍍あり、一般的な大きさのものです。

写真右は『チャート』という石材で作られた長さ6.7㍍、重さ20㍍の石鏃で、通常の狩猟用よりも大きく、儀式(祭祀)

用だったと考えられています。

写真左は、長さ1.05㍍、重さ0.2㍍と非常に小さく、黒曜石でできています。狩猟で使ったあとに欠けた部分を再加工した結果、小さくなったとも考えられますが、想像を膨らませると、石器作りの腕前を自慢するために、あまり実用的ではない極小の石鏃を作ったのかもしれない。



↑左の小さな石鏃の下は1円玉です